

平成28年度学校評価(年度末評価)

本年度の重点目標	1 基本的な生活習慣の確立 7 生徒会活動の充実	2 授業の規律確保と充実 8 産業の複合化への対応と職業教育の充実	3 進路実現に必要な力の養成	4 防災体制の整備	5 自律的な健康管理力の向上	6 美化・緑化の推進
----------	-----------------------------	--------------------------------------	----------------	-----------	----------------	------------

担当	重点目標	具体的方策	留意事項	評価結果と課題
総務部	・防災体制の整備	・防災意識の向上をはかる。来るべき大地震に備え、訓練や広報で啓発活動を行う。	・本校の防災マニュアルを全職員に配布する。 ・防災について朝礼等で頻繁に訴える。	・防災マニュアルの見直し整備が完了していない。今年度はとりえず必要箇所を抜粋して簡易版を全員に配布した。課題はマニュアルの見直しを図りたい。
	・同窓会活動の充実	・隔年実施の同窓会総会の年なので、役員、委員と協力して早くから準備する。	・昨年度卒業した同窓会委員が大勢いるので、自主的な準備をお願いする。	・同窓会総会が盛会であった。次回も多数参加してもらえよう、広報活動等を充実させるとともに、同窓会委員が率先して実施できるよう取り組んでいく。
	・PTA活動の充実	・現在のPTA活動の状況を維持するため、役員を中心に協力を仰ぎ、より充実したPTA活動を目指す。	・役員と連絡を密に取り、円滑な関係を保ち、より一層の発展を目指す。	・役員との協力によりPTA活動が充実したものとなった。理事会には毎回たくさんの理事が参加し盛会であった。研修旅行やカルチャー教室もたくさんの参加者があり盛況であった。
教務部	・授業の規律確保と充実	・全職員に授業の規律確保と充実に向けた方針をしっかりと伝え、教科主任会・教科会を通して全教員が一丸となって生徒の学習指導、授業規律の確保を目指す。	・欠課時数報告書、出欠統計の報告をもとに、生徒情報を関係各所と綿密に連絡を取り、効果的な指導を行う。課題の未提出等の些細なことを見逃さずに最後まで、指導をすることや、理解の不足している生徒に対しては、更なる丁寧な指導を心がける。	・教科主任会・教科会を通して全教員が一丸となって生徒の学習指導、授業規律に力を入れた。相互の連絡や保護者への対応も適切に行うことができた。
	・基礎学力の向上	・朝読書の時間を充実させることにより、読む・まとめるといった力を育成する。	・朝読書の時間を習慣づけ、落ち着いた雰囲気での1時間目の授業に臨ませる。	・朝読書を試行錯誤して進めた。次年度は、進め方を確立させたい。
生徒指導部	・基本的な生活習慣の確立	・欠席、遅刻、早退に対する適切な指導を行い、家庭と連携をとる。	・門限登校指導を通じて遅刻防止を図る。	・門限遅刻、本遅刻について学年と連携をとり指導できた。 ・遅刻数が増加現象にあるため方策を考えていきたい。
	・マナー、モラルの一層の向上	・身だしなみ指導の徹底を図る。 ・委員会活動を通じ挨拶を励行する。	・見て見ぬふりをしない、その場で適切な指導を行うように心がける。 ・全教員の共通理解のもとで指導が行えるよう、意思疎通をはかる。	・全教員の共通理解及び協力の下、生徒に関する細かい指導が行えた。 ・風紀委員会を活用し、学期ごとの挨拶運動が行えた。
	・情報モラルの育成を図る	・講話・講演を通じ情報モラルの育成を図る。	・SNSに関する諸問題に対応できる能力の育成を中心とした内容を実施する。	・新しい取組として、SNSに関してのイジメ問題に対して、風紀委員会を中心にワークショップ形式の話し合いを実践することができた。来年度以降も実施していきたい。
保健厚生部	・自律的な健康管理能力の向上	・教員の観察能力の向上を図り、生徒の心身の健康状態の把握に努める。	・「朝の健康観察」を含め、全教育活動において生徒の心身の変化を把握し、気づいたことを記録するようにする。	・記録の重要性は共有することができた。観察による気づきをより多くしていくことが必要だ。方法を工夫していきたい。
		・講話や配布物などを通じて、生徒、保護者、職員の健康意識の向上を図る。	・時節に応じた話題を取り上げ、親しみやすい内容とする。	・保健だよりは「配布物・学校の連絡メールシステム」を利用して情報を発信することができた。生徒の意識に訴える機会がもっと増えると良い。
	・校内美化・緑化の推進	・清掃点検やゴミの分別指導と同時に校内緑化活動を充実させ、校内の環境整備を行う。	・校内でのゴミ処理のマナー向上を図ることができるよう美化委員会を中心に啓発活動を行う。また、緑化については緑化委員のみならず、多くの生徒が携われるような活動を行っていく。	・学校祭の機会に美化委員がクラスにごみの分別を訴える活動をすることができ、マナー向上が図れた。緑化活動・除草活動を含め、校内の環境整備を前進させることができた。
図書情報部	・読書指導の充実	・学年や教科と連携し、朝読書や授業などで図書室の利用を促す。	・場所を提供するだけでなく定期的に情報を発信し、朝読書や授業で利用できる図書を紹介する。	・図書だよりや掲示物による本の紹介や読書会、校内読書感想文コンクールに向けた取組により、読書に親しみ図書館に足を運んでもらう機会が増えた。授業で利用しやすいよう調査・研究に役立つ書物を取りそろえ、新聞や文房具などを整備した。蔵書整理の遅れや新規購入図書の開架準備によって館内が雑然としてしまい、一部利用づらい状況があった。蔵書整理については、蔵書チェック後の修正作業を分担して進められような段取りを検討したい。
	・情報教育の推進	・授業や行事などで情報機器の活用や情報モラル教育の機会を充実する。	・情報機器の活用方法や情報モラルを啓発する資料を紹介し、職員の情報教育に対する認識を深め、関心を持ってもらうことを基本とする。	・情報機器の管理および活用される先生からの個別の依頼には対応することはできたが、積極的な活用を促すことや情報モラル等の啓発については最低限のことしかできなかった。情報機器の利用方法や管理方法などについて資料や手引きを作成し、配布および掲示をするようにしたい。
	・適切な教育情報の発信	・主にホームページを通じて教育情報を、適切なタイミングで発信するとともに、その内容について様々な視点からの評価に耐えうるものとする。	・ホームページについては、掲載記事を依頼した分掌・学科および管理職と連携し迅速に対応するとともに、その内容について公平性・正確性・コンプライアンスなどの視点から見直すことを徹底する。	・ホームページの適時更新や使いやすくなるための修正作業などは概ね実行できたが、一部記事が古いなど適切でないものもあった。各分掌や学科、部活動などの個別の内容について定期的にチェックし、該当の部署に連絡できる体制を確立したい。アップする内容については管理職に確認をし不適切な事例のないように留意した。

進路指導部	・進路実現に必要な力の養成	・3年間の進路指導を段階的に行う。	・各学年の学年会や担任会と連携をしながら、各学年の進路指導目標を達成させる。	・進路指導部の各学年担当が学年会、担任会と進路指導部とのパイプ役となり、進路指導部からは進路に関する行事などの連絡や依頼、そして、学年会、担任会からは進路指導部に対する要望や依頼などを吸い上げることが概ねできた。
		・生徒に有用な進路情報を精選し提供する。	・進路情報に対して広い視野をもつために、校内ガイダンス、外部講師による講話、卒業生のお話を聞く会などを充実させ、最新の進路情報を提供する。	・校内ガイダンスの実施については、学年会、担任会からの要望を取り入れながら実施することができた。 ・卒業生のお話を聞く会は、昨年度から進路指導部が担当することになった。現在、計画の段階ではあるが、昨年度の反省をもとにより生徒の進路希望に添う形で実施できるよう進めているところである。
		・進路実現に必要な学力、面接力、文章能力などの向上に必要な指導を充実させる。	・面接、作文・小論文指導を各教員の協力のもと実施する。 ・基礎学力、一般常識力の向上を図るために各学年と連携して、長期休業中の課題、朝の学習会の活用等を実施する。	・就職、推薦入試、2学年の面接指導については、各学年の副担任、学年付、企画委員の先生方の協力を得て実施することができた。 ・作文、小論文指導については、各学年が主導となって実施した。推薦入試対応の小論文対策については、分掌として対応することができず、来年度どのような形で対策をたてるかが課題となる。 ・朝の学習会、長期休業中の時間の活用については、学年と現在検討中である。
特別活動部	・生徒会活動の充実	・各学年会との連携を向上させ、情報伝達を充実させる。	・担任会、学科、分掌を中心とした相互情報伝達を充実させる。	・担任会、学科、分掌を中心とした相互情報伝達の方法や手段を素早く選択できた。
		・生徒の目線に立った学校行事等をより充実させる。	・学校行事後も、フォロー指導を行い、きめ細かな事後指導を行う。	・各学年へ連絡事項、学年からの相談・依頼を集約し、部会内でよりよい方法を選択できた。
第1学年	・基本的な生活習慣の確立	・規則正しい生活習慣を身に付けさせる。 ・日頃の食生活を意識させる。	・家庭との連絡を密にする。 ・保健厚生部との連携を図る。	・連続して欠席をする生徒はほぼ見られなかった。しかし、若干安易な遅刻をしてしまった生徒が見受けられた。家庭との連絡は密に取ることができた。来年度も、早く生徒の欠席状況をつかみ家庭との連絡をこまめに取ることによって欠席を減らしていきたい。
	・基礎学力の向上	・毎日の授業を大切にさせる。 ・読書の推奨。	・各教科担当者との連携を取り合い、遅れている生徒がいれば、学年でも方策を立てる。 ・短い時間でも、落ち着いて読書ができる時間の確保。	・朝の短い時間を利用し、朝読を行った。しかし、なかなか定着するには至らなかった。何らかの方策を今後考えるべきである。 ・学年で、考査前に遅進者に対して学習会を行ったが、不振科目を抱えている生徒が複数名出てしまった。日頃の学習に対する意識付けがこれからの課題である。
	・部活動や行事への積極的参加	・部活動や学校行事に積極的に参加させる。	・事前指導、事前準備をしっかりと行う。	・特に運動部での部活動離れが目についた。担任と顧問との連絡が不十分だった部活もあった。今後さらに部活に所属する生徒が減ることが予想されるので、どう働きかけていくかが課題である。
	・社会性を養う。	・約束の厳守、素直な心、自立する心を身に付けさせる。	・3年後を見据え、日頃から学年で声掛けをする。	・日頃のあいさつをはじめとする社会性について、学年集会などを通じて話をしてきた。まだ、十分とは言えないが、少しずつ身につけているように思われる。今後も、より具体的な話をしながら声掛けをしていく必要がある。
第2学年	・基本的な生活習慣の確立	・規則正しい生活習慣を身に付けさせ、進路を見据えた行動を意識させる。	・規則正しい生活を心がけ、安易な遅刻欠席がないよう、常日頃から進路を意識した話をしていく。	・常日頃から担任を中心として話をしてきた。年度の前半は指導の効果があまり出ずに苦慮することも多かったが、繰り返しの指導により、後半は生徒も落ち着いてきて、遅刻欠席を減らすことができた。
	・学習意欲の向上	・基礎学力をはじめ、さまざまな学習活動に積極的かつ意欲的に取り組ませる。	・朝学や朝読書により、落ち着いた学習環境を整え、授業に臨む態度をつくらせる。	・全員が自主的に取り組むということは最後まで難しかったが、しっかりとできるようになった生徒も多く、来年度につなげていきたい。
	・学校行事と部活動の充実	・修学旅行をはじめとする学校行事や部活動で学校の中軸として、活躍できるようにする。	・事前準備や事前指導をしっかりと行う。	・部活動では中核となり、よく頑張ることができた。 ・学校行事では事前準備から前向きに取組、よい思い出をつくることができたのではないかと感じている。
	・自立性と自律性の確立	・LTや集会など自ら企画し考えて行動できるようにする。	・考えさせる時間を多く持つような根気強い指導をしていく。	・様々な場面で呼びかけを行ってきた結果、成長した生徒もいる。しかし、全体の成長にはつながらず、集団として成長させることや同じ方向へ導いていくことの難しさを痛感した。
第3学年	・基本的な生活習慣の確立	・進路実現を見据えた生活習慣を身につける。	・基本的な生活習慣の確立に加えて、今まで以上に進路実現を見据えた生活が送れるように環境を整える。	・担任、副担任、生徒指導部の協力の下、生徒の基本的な生活習慣を身につけることができた。また、進路実現を見据え生活環境を整えることができ、進路実現につなげることができた。
	・進路指導の充実と連携	・進路実現に向けて手厚い指導を進路指導部と学年で連携・協力する。	・進路指導部と学年で連携を図り、生徒の進路実現に向けて、最大限のサポートをおこなう。	・進路指導部を中心に、学年団と連携を密にとり、生徒へのきめ細かい指導をおこなうことができた。また、進路未確定者に対する指導や声かけも適宜行うことができた。しかし、進路に迷う生徒や成績不振から進路指導ができない生徒に対する指導が難しかった。
	・自立した人間形成の確立	・生徒個々の社会性を磨き、社会で活躍できる人間形成を継続的におこなう。	・学年全体で自ら考え、判断し、行動させる指導を継続的におこなう。安易に答えを教える指導はおこなわない。	・1年次から大きなビジョンの1つとして掲げてきた人間形成において、多くの生徒が高い意識を持つことで成長へと繋がった。しかし、意識の低い生徒に関しては、指示待ちという形となってしまう、意識改革の難しさを痛感した。
	・学習意欲の向上	・授業規律、家庭学習、課題の提出、検定取得、考査学習、国家試験学習に向けて最大限の準備をおこなう。	・進路指導のみならず、日頃の学習意欲の向上を意識させ、幅広い教養を構築させる。	・朝読書の時間がプラスに働き、落ち着いた雰囲気の中で1日のスタートをきることができた。しかし、学習意欲の向上という目標を達成できたわけではない。更なる向上を目指すために次なる策が必要である。
	・部活動・行事で中核を担う	・最上級学年として、部活動や行事を牽引し、下級生の模範となる。	・部活動や行事において、最上級学年としての自覚と責任を持たせ、高い意識を持って臨ませる。	・部活動や行事で活躍や成果が顕著にあらわれた。担任や各部活動の顧問が必要に応じて自立や自主性を促す指導を取り入れていただいた成果を感じる。生徒の成長を考え、学年、クラス、部活動で同じ方向性を持った指導方針がよかった。

商業・ 情報処理科	・販売ビジネスコースおよび観光ビジネスコースのインターンシップの充実	・事前指導と事後指導を充実させ、適切な振り返りをさせる。	・実習日誌や自己評価シート等を作成させ、課題や反省点を確認させる。	・実習日誌や自己評価シートを作成させることで、効果的に自身の取組を振り返り、次のインターンシップへフィードバックさせることができた。さらに、業務改善提案書の作成を通じて、主体的に取り組む姿勢の確立を目指した。
	・総合選択制導入に向けた準備	・生活文化科と連携を図り、魅力的なカリキュラムを構築する。	・科会等を通じて、意見交換を行い、実施内容を検討する。	・検討委員会において、生活文化科からの要望を収集した。また、科会を通じて意見交換を行い、選択科目の原案を作成し、実施内容を決定することができた。
	・専門的知識の習得と資格取得	・各コースの特色が出せるように、必要に応じて外部講師を活用する。 ・検定前に適宜補習を行い、生徒の資格取得に向けてきめ細かな学習指導を行う。	・外部講師の授業を通じて、新しい知識や技術を習得する。 ・生徒が積極的に検定にチャレンジできるよう、日頃から適切な指導を行う。	・観光バス会社やファミリーレストラン、金融機関や情報通信会社などから積極的に外部講師を招き、特色ある授業作りを進めることができた。 ・検定学習会を実施し、各コースが目標としている検定に多くの生徒がチャレンジし、合格することができた。
	・広報宣伝活動の充実	・HPや出前授業、体験入学や学校説明会などを通じて、積極的に商業・情報処理科の宣伝活動を行う。	・様々な機会を通じて、商業・情報処理科の広報宣伝活動を行う。また、商品開発にも引き続き力を入れ、地元企業との連携を図る。	・学校説明会や近隣中学校での出前授業を通じて、本校の取組を宣伝することができた。また、地元企業の協力を得て、和菓子とリップバームの商品開発を進めることができた。 ・地域情報紙「noci.com(のちこむ)」を発行し、地元の魅力を生徒目線で発掘し発信することができた。その取組を通じて、地元の情報だけでなく、本校の取組も併せて発信し、宣伝活動を行うことができた。
生活文化科	・専門的な知識や技術の習得と資格の取得	・外部講師の活用や個に応じた指導を充実させ、各コースの専門性を高める。 ・各種の資格習得やコンクール等に挑戦させる。	・多様化した個に応じたきめ細やかな指導を行い、より専門的な知識や技術の定着を図る。	・調理や保育、福祉や服飾デザイン分野の外部講師とともに講習会を実施し、より専門性の高い指導を行った。また、個に応じた指導を充実させ知識や技術の定着を図った。 ・各種の資格取得に取り組ませ、良い成果をあげることができた。コンクールの種類は年々増えているので、内容を検討しながら指導を深めていきたい。
	・学科行事および学校家庭クラブ活動の充実	・学科行事や家庭クラブ活動を通じて、生徒の社会性やコミュニケーション能力の育成を図る。	・年間を通じて、学科行事や家庭クラブ活動への効果的な指導を行う。	・学科行事や家庭クラブ活動を通して地域や他校との交流を深め、生徒の社会性やコミュニケーション能力の育成を図ることができた。また、校内掲示等で生徒の活動を報告することができた。来年度はさらにホームページの更新にも努めていきたい。
福祉科	・学科の特色を活かした進路実現	・担任と連携を図り、進路に関する個別面接指導を充実させる。	・生徒の実態に応じた、きめ細かい個別指導を行う。	・担任、進路指導部と連携を図ることができたが、生徒の状況に応じた対応ができない面もあった。今後は進路決定まで面談を重ね、実態に即した対応をしていきたい。
	・介護福祉士国家試験合格に向けた学習指導	・模擬試験の活用や補習を効果的に活用し、介護福祉士国家試験合格に向けた取り組みを進める。	・模擬試験や補習などの時期及び内容を効果的に計画する。また、習熟度の応じて個別指導を行い、知識の定着を図る。	・4回の模擬試験実施と業後や冬期休業中の学習指導を行った。生徒の苦手分野のアンケートを取って講義を行ったり、習熟度が低い生徒には学習環境を整え対応した。
	・介護技術コンテストの運営	・生徒主体で介護技術コンテストを運営できるよう、きめ細かい指導を行う。	・介護技術コンテストの運営に向けて、福祉科行事を生徒主体で実施できるよう指導する。また、生徒1人ひとりの役割に応じたきめ細かい指導を行い、介護技術コンテストの円滑な運営を目指す。	・介護技術コンテストの運営に向けて、生徒自らが考えアイデアを出せるようにした。1人1役を与え、責任を持って取り組むように指導し成功を収めることができた。また、教員間での打合せを密に行い、連携を図ることができた。来年度は反省を活かし、より円滑に会を運営したい。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	1 基本的な生活習慣の確立について 2 規律ある学習指導と学力の伸長について 3 進路指導における進路実現について 4 防災体制について 5 自律的な健康管理について 6 校内の美化・緑化について 7 部活動の活性化について 8 キャリア教育の推進について			